



天文台だより

銀河の森天文台
2006 夏号
Vol.32



分裂したシュワスマン・ワハマン第3周期彗星！

2006年5月12日、シュワスマン・ワハマン第3周期彗星が1930年の発見以来、地球へ大接近しました(最接近:約1100万km)。残念ながら肉眼ではっきり確認できる程の明るさにはなりませんでしたが、大型望遠鏡で見ると左の写真のように彗星の尾も十分楽しめました。5月の初めには彗星のB核が分裂する様子をすばる望遠鏡が捉えて話題になりました。現在、B核の分裂核は60個以上確認されています。

シュワスマン・ワハマン第3周期彗星(73P) B核
2006年5月12日 0:55~1:20
115cm大型望遠鏡「りくり」にて撮影



木星が見頃！

この夏、木星が見頃を迎えます。りくり望遠鏡で見ると木星のしま模様がはっきりわかります。是非ともこの夏、太陽系最大の惑星をご覧ください。

館長コラム「宇宙って何？」

「宇宙科学」と「宇宙の科学」の違いがわかりますか。宇宙科学は“space science”の訳語であって主に飛翔体(人工衛星や人工惑星)を用いた太陽系空間の科学のこと、一方、宇宙の科学は天文学のことである。問題は“universe”の訳語が宇宙であり、“space”の訳語も宇宙だということである。つまり全く違う概念(言葉)が一つの訳語(言葉)に対応している。物理学ではこういう現象を縮退という。その昔はspaceのことを宇宙空間と云ったが、言葉は短縮化に向かうから、今では空間がとれて宇宙と云う方が多い。宇宙科学も宇宙開発もその例である。最近、この混乱が気になって仕方ない。たとえば、「宇宙に行ってきた」とか「宇宙から見た地球」と言ったときの宇宙、「宇宙旅行」とか「宇宙ロケット」の宇宙、「宇宙の年齢」とか「宇宙の構造」の宇宙、一般の人々はこれらの「宇宙」に対してどんな概念を抱くのであろうか。言葉は文化の基礎だから、これらの「宇宙」は一つ概念を表しているに違いない。人々は日本語で考える限り、これはspaceのこと、それはuniverseのことと区別したりしない。そこから起こる弊害は宇宙という概念の矮小化だと私は思うのだがいかがであろうか。



(山下館長)

迫力の月面！！

月もりくり望遠鏡で見ると迫力ある月面のクレーターを間近に見ることができます。まだ見たことのない方、一見の価値あります！



☆星のトリビア「月齢と潮」

月齢(げつれい)という言葉は天気予報などでよく耳にすると思いますが、その意味をご存じでしょうか？月齢とは、直前の朔(さく; 新月)から当日までの経過時間を日の単位で表したものです。一般に月齢というと、当日の中央標準時12時(正午)の値を示しています。例えば、月齢が5.5ということ、その日(正午)が新月から5日と12時間経過しているということがわかります。月の満ち欠けの周期はほぼ29.5日なので、月齢は0から増えていって29.5になると0に戻ります。すなわち、月齢が0や29というと新月を表し、15前後は満月になります。ところで、「月齢」と「潮」は密接な関係があります。例えば、太陽・地球・月が一直線に並ぶとき(新月や満月のとき)、月や太陽の引力の影響が一番大きく、「大潮」になります。月齢でいうと、大潮は、28.5~29.5、0.0~3.0(新月期)、13.8~17.7(満月期)の期間、小潮は、5.9~8.9、20.7~23.6(半月期)の期間にあたります。(村)

暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
7月 1日	3:44	19:14	5.5	9:00	22:24
7月 15日	3:54	19:08	19.5	21:38	8:35
8月 1日	4:10	18:52	6.9	10:58	21:38
8月 15日	4:26	18:33	20.9	21:14	11:29
9月 1日	4:45	18:05	8.3	13:15	21:40
9月 15日	5:00	17:40	22.3	22:07	14:01

天文行事&暦

7月

- 7 小暑(24節気:太陽黄経105°)
- 12 ○満月
- 19-23 夏の天の川観望会
- 20 大暑(24節気:太陽黄経120°)
- 25 ●新月
- 29 みずがめ座δ流星群が極大
(最大20~30個/時)
- 30 やぎ座流星群が極大
(最大10個/時)

8月

- 2-20 町民無料観望会
- 7, 8 天文台特別開館
- 7 水星が西方最大離角
(光度:+0.0等, 離角:19° 11')
- 8 立秋(24節気:太陽黄経135°)
- 9 ○満月
- 12, 13 ペルセウス座流星群観望会
- 13 ペルセウス座流星群が極大
(AM2時 最大10~20個/時)
- 14, 15 天文台特別開館
- 23 処暑(24節気:太陽黄経150°)

9月

- 8 白露(24節気:太陽黄経165°)
- 8 ○満月
- 22 ●新月
- 23 秋分(24節気:太陽黄経180°)



銀河の森の人気者エゾユキウサギが今年も暖かくなった5月中旬頃からコテージ村周辺に現れるようになりました。愛らしい姿は見ていて和みます。

夏のイベント情報 !!

☆夏の天の川観望会

夏の新月近いこの時期は天の川がよく見えるため、天の川やその周辺の天体を観望します。満天の星空をお楽しみ下さい。

開催日時: 7月19日(水)~7月23日(日)

説明会: 午後8時から(土曜・日曜のみ)

☆町民無料観望会

8月2日(水)~8月20日(日)の期間、町民の皆さんへ天文台の無料開放を行います。団体、サークル活動の一環としての来館も是非どうぞ。

「天文台あれこれ」-天文台でのできごと-

毎年、春から秋にかけては、多くの団体が天文台に来館します。とある地方の高校生が宿泊研修の一環で夕食後に当館を訪れた。「こんちわ」どやどやと元気良く、ジャージやスエットをズリズリ下げながら入ってきた。シャツのすき間からカラフルなパンツが見えていたが、不思議と違和感がなく、なるほど、これが中高校生の流行なんだと、自分の中でも理解ができ感心してしまった。それでは、男子だけでなく女子もと見渡すと、さすがにズリズリジャージの子はいなくて、少し安心してしまった。説明が始まると、高校生たちは居眠りやおしゃべりもなく感動しながら最後まで説明を聞いていた。これだけ多くの生徒の中には、一人ぐらい眠ってしまうものもいるのではと、思ったが意外にも普段あまり聞かない星の話題は、新鮮に感じたのか多くの生徒は歓声をあげながら聞いていた。途中で居眠りした人は、引率の若い女の先生だけだった。またのご来館お待ちしております。

☆ペルセウス座流星群観望会

ペルセウス座流星群が8月13日の午前2時に極大時刻を迎え、これを前後して流星が多く見られると予想されるため観望会を開催します。

開催日時: 8月12日(土)、13日(日)

説明会: 午後7時30分から

「天文茶話」-満天の星空-

都会で夜空を見上げてみてもそこには2等星や3等星までの数えるほどの星しか見えません。しかし山や海へ出掛けると吸い込まれるほどの満天の星空を目にすることでしょう。これは街灯などによる光害の影響が少ないためで、6等星あたりの暗い星まで見えます。6等星の星という目で見える限界の明るさで、一晩でおよそ3000個も見えますといえます。また更に、夜空を写真に撮るともっと暗い星まで写り込み、数万という数の星で夜空はまるで埋め尽くされてしまうほどたくさんの星がひしめき合っています。これから夏の時期、暗い夜空の下では大空に広がる美しい天の川も見ることができるので、時には満天の星空を眺めてみてください。(寛)

天文台からのお知らせ

☆ 8月7、8日、14、15日は、月・火曜日ですが、特別開館します。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp